

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：36301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01571

研究課題名（和文）利己心と慈愛心 J. プリーストリーとT. ベルシャムにおける科学と宗教

研究課題名（英文）Selfishness and Benevolence: science and religion in J. Priestley and T. Belsham.

研究代表者

松本 哲人 (Matsumoto, Akihito)

松山大学・経済学部・教授

研究者番号：70735828

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：ジョセフ・プリーストリーならびにトマス・ベルシャムの著作及びそれに関連する二次文献の検討を実施した。とりわけ両者が18世紀後期イングランドにおいて神学と経済の問題や、経済の原動力となる科学的知識の発見や普及、人的資本の確保のための教育についてどのような考えをもっていたのかについて着目した。とりわけ自然哲学と道徳哲学という科学とキリスト教という神学がいかに結びついていたのかを考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

18世紀後半イングランドという産業革命期の科学的知識の発見ならびに伝播について、自然哲学と道徳哲学という科学とキリスト教という神学がいかに結びついていたのかを考察することで科学がそれ自体として発展してきたのではなく、宗教的な営為と極めて密接に結びついており、それらがまた経済ならびに経済活動と結びついていたことを明らかにした。また経済や科学が利己的な行為としてではなく神学と結びつくことで慈愛心を持つ行為としても考えられていた。

研究成果の概要（英文）：The works of Joseph Priestley and Thomas Belsham and related secondary literature were examined. Particular attention was paid to their views on the issues of theology and economics in late 18th-century England, the discovery and dissemination of scientific knowledge as a driving force of the economy, and education for securing human capital.

研究分野：経済思想

キーワード：ジョセフ・プリーストリー トマス・ベルシャム 道徳哲学 非国教徒

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

啓蒙思想は科学を宗教から分離する「脱宗教化」の過程として捉えられてきた。しかしながら、J.H. Brooke(1991. *Science and Religion*, Cambridge U. P.)等が明らかにしたように、18世紀後期イングランドにおける啓蒙は、「脱宗教化」とは異なり、科学と宗教をいかに調和させるかが問題であった。そこで本研究は、18世紀後期イングランド啓蒙の「科学と宗教」の問題を、利己心と慈愛心の問題として焦点を当てどのように「科学と宗教」を調和させようとしたのかを明らかにしたい。その際、二人のユニタリアンに特に着目する。一人は18世紀後期イングランド啓蒙のもっとも重要な人物として知られているジョセフ・プリーストリー(Joseph Priestley, 1733-1804)であり、もう一人は、プリーストリーの自他ともに認めるもっとも著名な弟子であるトマス・ベルシャム(Thomas Belsham, 1750-1829)である。

ユニタリアンが注目に値するのは、彼らの神学的な特質とその社会的地位ならびに経済的富の獲得による。イングランド国教会がもっとも重要視した三位一体説を拒絶し、靈魂の存在を否定し、すべてを肉体(=物質)に還元した。彼らのそのような教義は、イングランド国教会と結びついたイングランド国家によってその存在を保証されることはなく、寛容法からも審査・自治体法からも排除され、教区に属することもないため救貧法の対象からも除外されていた。そのため彼らは自分たちの生計を自分たちで立てるほかなかった。そのため、彼らは様々な科学的知識を追求し、商売をするようになった。プリーストリーは実際、二酸化炭素が水に溶けやすい性質を利用し炭酸水を開発、販売したり、ゴムが字を消すことに有効であることを突き止め消しゴムを開発したりと現代の私たちも利用している様々な商品を販売し、自らの生計を立てていたことはよく知られている。

その過程で、プリーストリーが「科学と宗教」の問題を解決しようとしていたことは不思議なことではない。自分たちの科学的営為が(自分たちが生存し、社会において居場所を獲得するという意味で)利己的な目的で遂行されたときに、その科学的営為が慈愛心を中心とした宗教(彼らの場合はキリスト教)に適っているか否かを検討することは、神学者としての彼の立場を安定的なものにするために必要不可欠なものであった。プリーストリーを中心としたユニタリアンを含む科学者集団ルナ協会もまた、彼と立場を同じにした研究者の集合体であったこともよく知られている。

18世紀末期にユニタリアンは多くの富を獲得するようになった。その過程で彼らは経済学に関心を持つようになった。プリーストリーは『歴史学および全般的政策に関する講義』において経済学を「新興科学」と見なし、経済学を含む道徳哲学は自然哲学と同じ方法で研究されなければならないと論じるに至った。その観点から考えたときに経済学における利己的な富の追求と宗教的慈愛心の問題が検討されなければならない課題として大きくなった。

フランス革命の余波で、プリーストリーはアメリカに亡命したが、その後、ユニタリアンの中心人物となったベルシャムもプリーストリーと同じように考えていた。ベルシャム自身は自然科学の研究を積極的に行うことはなかったが、道徳哲学に関する研究を多く行っている。そこでその中心的な関心は、人間の行為と宗教の調和に関する問題であった。経済活動が進展していく中で人間の利己心や自己愛の比率が高まってきていた。事実、イングランドの富の非常に多くをユニタリアンを含む非国教徒が所有している状況で、ベルシャムは利己的な富の追求と慈愛心の問題を解決しようとした。最終的に、彼は「自己愛と慈愛心は宗教によってのみ調和せることが可能である」と考えたのであった。

このような背景からプリーストリーとベルシャムという二人のユニタリアンはどのようにして科学(とりわけ経済学を含む道徳哲学)と宗教を慈愛心によって結びつけ、調和させようとしたのかを明らかにしたい。

2. 研究の目的

本研究の目的は、18世紀後期イングランド啓蒙思想の主要な担い手であった非国教徒のうち、ユニタリアンであるプリーストリーとベルシャムが、科学と宗教の問題を彼らの利己心と慈愛心の考えに着目することでどのように調和させようとしたのかに着目し、彼らの啓蒙思想の特徴を社会経済思想の観点から明らかにすることである。これまでイングランド国教徒によって担われた啓蒙思想は A. Waterman(2004. *Political Economy and Christian Theology Since the Enlightenment*, Palgrave Macmillan)や P. Oslington(2017. *Political Economy as Natural Theology*, Routledge)によって明らかにされてきたが、非国教徒、とりわけユニタリアニズムに焦点を当てた研究は存在しない。またスコットランド啓蒙が主に長老派を主導に行われてきたことを鑑みたとき、R. E. Richey (1973. "Did the English Presbyterians Become Unitarian?", *Church History* 42, (1): 58-72.)が論じたように、その長老派から聖書の合理的解釈を前進させ登場したユニタリアニズムはスコットランド啓蒙の亜種であるということも可能であるだろう。

その特徴を析出することは、18世紀後期イングランド啓蒙思想だけでなく、スコットランド啓蒙のイングランドへの継承関係や、経済学を始めとしたスコットランド啓蒙が生み出した道徳哲学の連続性や断絶性を見ることを可能とするであろう。18世紀後期イングランド啓蒙における科学と宗教の調和という問題は、その「科学と宗教」という狭義の限定された問題だけでなく、それを時代と地域を拡げ、考察することを可能とするであろう。

3. 研究の方法

本研究は、まず、ベルシャムの宗教による自己愛と慈愛心の調和に関する問題を彼のテキスト『人間精神哲学原理』(1802)および『道徳哲学概論』(1802)を中心に明らかとし、その特徴を析出することから始められる。その過程において、彼が経済問題を意識し書いたと想定される彼の貧民教育論は、彼の経済思想を知る上の手がかりとして極めて有益であるだろう。しかしながら、イングランド本国のいくつかの図書館が所蔵しているだけであり、入手することが困難であるため、現地での資料調査等を必要とする。その他にもベルシャムの未公開資料は非国教徒関連資料の多くを蔵書している大英図書館やQueen Mary University of Londonの付属機関であるDr. William's Centre内Dr. William's Libraryが所蔵しており、それらの資料を直接見に行くことが研究の進展に必要である。そうすることでプリーストリーとベルシャムの宗教的相違ならびに道徳哲学に関する相違について比較考察が可能となるであろう。プリーストリーの時代のユニタリアンを含む非国教徒は、ベルシャムの時代の非国教徒よりも裕福ではなかった。それゆえに、彼らが直面した時代状況は異なっており、現状認識に相違がみられる可能性がある。その現状認識から生み出された相違に着目することも必要であろう。最終的にそれらを統合し、プリーストリーとベルシャムの利己心と慈愛心の観点から、科学と宗教の調和に関する問題の特徴を明らかにし、ユニタリアニズムと社会経済思想の統一的調和が18世紀後期イングランド啓蒙の本懐にあったことを明らかにする。

4. 研究成果

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行のもと、当初計画していた未公開文書等の探索に現地図書館等に赴くことができなかったが、公開されている資料等を利用し、研究成果を出版することができた。

また、トマス・ベルシャムやプリーストリーとベルシャムを中心としたユニタリアンと経済及び経済学に関する研究成果についても今後、論文や著作の形で出版していくこととしたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|-----------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 松本 哲人 | 4. 巻 71(4) |
| 2. 論文標題 教育、市民的自由、国家 : J. プリーストリーの教育思想 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 関西大学経済論集 | 6. 最初と最後の頁 259-275 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/00026128 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 松本 哲人 | 4. 巻 71(1) |
| 2. 論文標題 自由・進歩・多様性 プリーストリー『第一原理』における教育と宗教 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 北海道教育大学紀要. 人文科学・社会科学編 | 6. 最初と最後の頁 63-77 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

| | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 著者名 久保真、中澤信彦 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 昭和堂 | 5. 総ページ数 288 |
| 3. 書名 経済学史入門 | |

| | |
|------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 Daisuke Arie, Masatake Okubo, Naoki Yajima | 4. 発行年 2024年 |
| 2. 出版社 Springer | 5. 総ページ数 200 |
| 3. 書名 Joseph Butler: A Preacher for Eighteenth-Century Commercial Society | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|